

1) 金属管による配管と支持方法

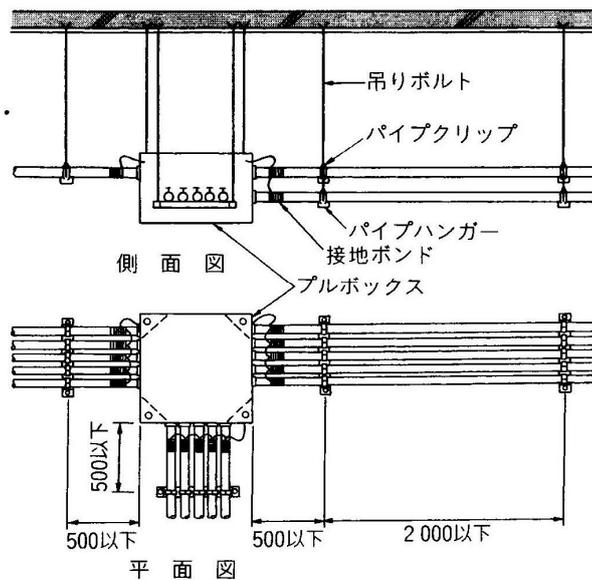
露出場所および点検できる隠ぺい場所（二重天井内）に施設できる。受変電室の配電盤より、機械室の動力制御盤およびシャフト（EPS）内の分電盤などへの電源の配管・配線である。配管の支持方法には、水平支持と垂直支持とがある。

a. 水平支持

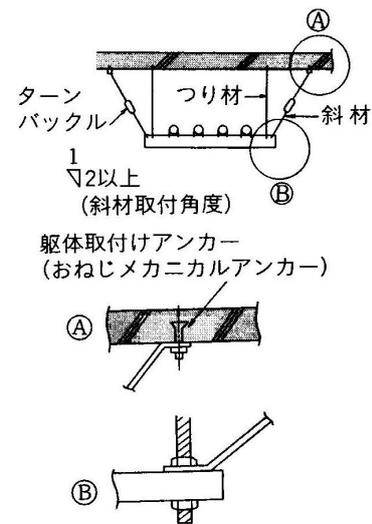
スラブコンクリート打設時に、型枠に取り付けられたインサート、またはホールインアンカーに吊りボルトをねじ込み、吊り金物（軽量形鋼など）を取り付け、平行配管し、パイプクリップなどを用い吊り金物に支持固定する。配管の支持間隔は 2m 以内とし、プルボックスよりの第 1 支持点は 500mm 以内とする（第 1 図参照）。吊りボルトの下端の長さは、ボックス内および吊り金物より、ナットの厚さ分を下に出す。

b. 垂直支持

シャフト内または盤への立上げ、立下げ配管を行う場合に用いる方法で、壁にブラケットまたは支持金物（軽量形鋼など）を、アンカーボルトなどで取り付け、パイプクリップなどで管を支持固定する方法である。（第 3 図参照）



第 1 図 水平支持



第 2 図 耐震支持

2) 電線の支持

a. 水平配管

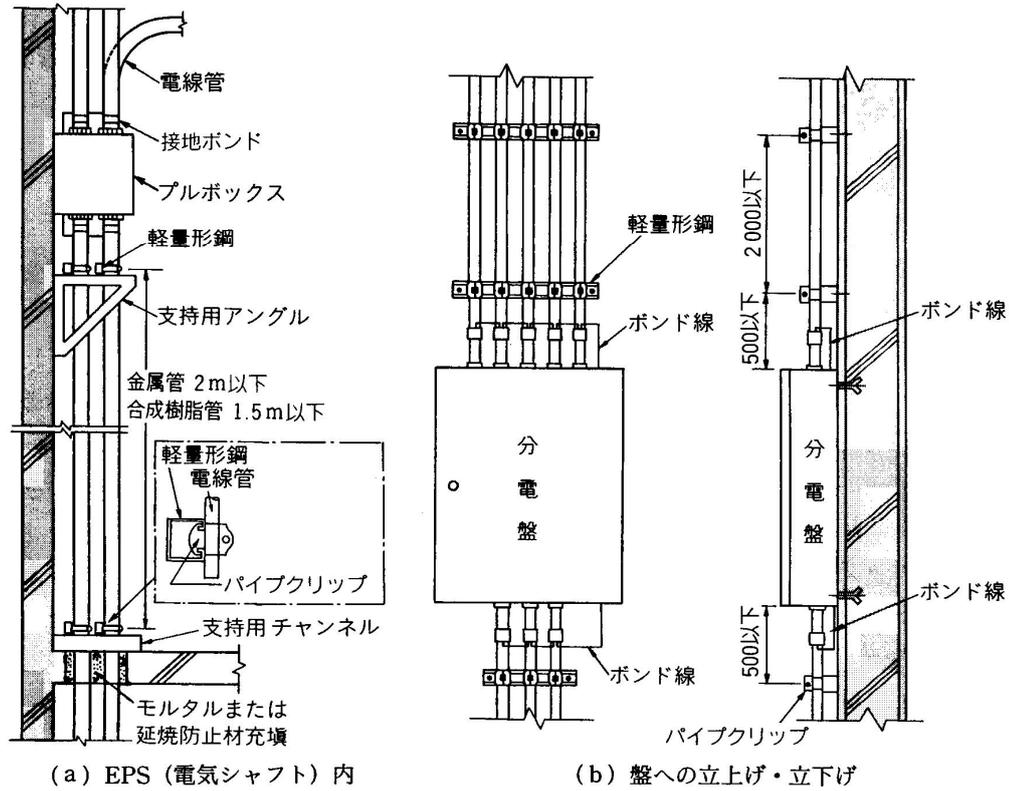
水平配管で、プルボックスの長辺の長さが 1m 以上素通しの場合、または電線の太物のジョイントの本数の多い場合などは、必要に応じて電線受けを設ける。電線受けは直角または対角線状に設ける。（第 4 図参照）

b. 垂直配管

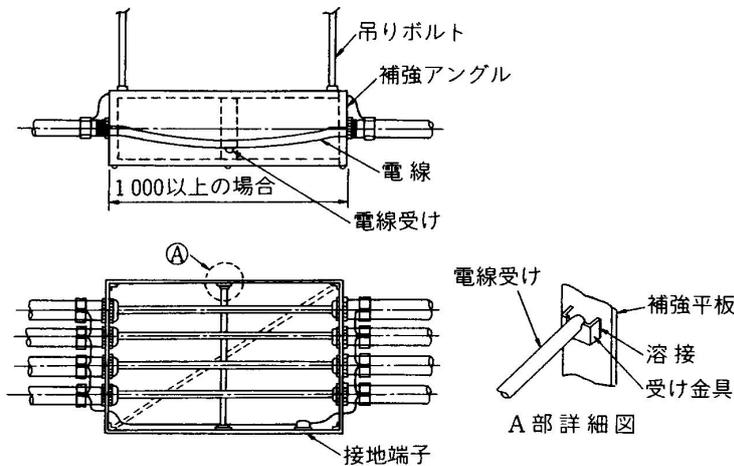
シャフト内など垂直に配管した金属管内の電線は、プルボックスごとに支持を行う。支持方法の一例を次に示す。

- (1) プルボックスに電線受を設け、木綿ひも、化学繊維ひもおよびナイロンバンドなどで結束支持をする。
- (2) 電線管の管端内側に、電線サイズに合せ木栓(くさび)を打込み支持をする。
- (3) 電線に垂直支持用ゴム板を巻付け、管端にはめ込み支持をする。

垂直配管内の支持については、内線規程 3110 - 14 で、具体的な支持例および電線の太さと支持点間の間隔について規定されている。(第1表参照)



第3図 垂直支持



第4図 電線受け

第1表 電線の太さと支持点間の間隔

電線の太さ (mm ²)	支持点の間隔 (m)
38 以下	30
100 "	25
150 "	20
250 "	15
250 超過	12